

令和 7 年度第 6 回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(長野市版子ども・子育て会議)
会議要旨

- 開催日時 令和 7 年11月 4 日(火) 午前10時00分から午前11時30分まで
- 開催場所 第二庁舎10階 講堂
- 出席委員 水口委員、渡邊委員、和田委員、塚田委員、倉島委員、日台委員、清水委員、松田委員、山崎委員、石垣委員
- 欠席委員 田中（亜）委員、塚原委員、北村委員、宮本委員、宮下委員、田中（宗）委員、中村委員
- 事務局出席者 島田こども未来部長、丸山こども政策課長、中村子育て家庭福祉課長、宮下保育・幼稚園課長、石坂こども総合支援センター所長ほか

発言者	内容
	1 開会
会長	2 挨拶
	3 議事
	(1) 長野市若者に関する計画案について
事務局	資料 1 に基づき説明
	《質疑応答》
委員	成果指標のアンケートについて、次回は令和10年度に実施するということか。
事務局	お見込みのとおりである。なお、若者に関する計画、第三期子ども子育て支援事業計画、子どもの貧困対策計画の三つをもってこども計画に位置付ける形となるが、こども計画全体を見直すのは、それぞれの計画が終了する令和11年度の前年の令和10年度となり、こども計画策定時には、改めて施策の体系を整理していく予定である。
委員	相談業務における職員の異動に対応する仕組みや、居場所の整理及びその見える化、情報発信等は非常に重要な取組と考える。
事務局	事務局としても重要な取組と考え、これまでの分科会で出された意見を反映し、施策 5 を設けている。
委員	基本的な視点の四つ目に、「若者の意見をしっかりと聞く」とあるが、実際の取組としてはどのように実施していく予定か。

発言者	内容
事務局	アンケート、ヒアリング、審議会の委員に若者を含める、など手法は多様なので、状況に応じて選択し実施していきたい。また、モニター制度などの新たな手法も選択肢として検討していく必要があると考えている。
委員	成果指標に設定されている項目について、対象が全て若者となっている。
事務局	若者に関する施策をまとめた計画のため、このような形となっている。アンケート等においては、若者に限らず、総合的な内容を含めていくなどの工夫も必要と考える。
(2) 第三期長野市子ども・子育て支援事業計画の変更について	
事務局	資料２－１に基づき説明 《質疑応答》
委員	最後の表について、５年かけて減少している理由を教えてください。
事務局	今後の人口減少を見込んでいる。 未満児については入所率が上昇している状況にあるので、保育所等に通っていない子どもが対象になっているこの事業については減少傾向を見込んでいる。
委員	保育士・保育所支援センターの設置とあるが、いわゆる人材バンクのようなものか。
事務局	人材バンク的な役割もあるが、すでに就職されている方、潜在保育士の現場復帰に向けた研修など総合的な支援も含めたものを考えている。
委員	保育士配置について、園での採用になるのか。保育士とこども誰でも通園制度の保育士は別の採用になってしまうのか。 また、満３歳になると通園制度を使えなくなってしまう。５月生まれの子は入所するまで保育所に通えない期間ができてしまうと、親の負担になってしまうのではないか。
事務局	保育士の採用については、私立・公立ともに誰でも通園制度専任の保育士を確保している。３歳以上の子どもについては、どのような形で支援できるか検討していきたい。
委員	３歳を過ぎて４歳から入園することを考えている場合は、入園まで誰でも通園制度を利用できるように検討していただければと思う。
事務局	保育所と連携しながら検討していきたい。

発言者	内容
	4 その他 長野市子どもの権利条例について説明 ながの子ども・子育てフェスティバルについて説明
	5 閉会